人のいる風景

今井 美樹 さん

【いまい　みき　さん】 清水町
●千歳ひまわり号を走らせる会　事務局次長

千歳ひまわり号を走らせる会
「来年も一緒に行こうね」

「旅をしたい」という障がいのある方の思いに応え、列車やバスなどを利用した旅行を実施する「千歳ひまわり号を走らせる会」が発足から20周年を迎えた。「障がいの有無を問わず、皆で旅を楽しもうというのが会のテーマです」と話すのは同会の事務局次長を務める今井美樹さん。

昭和57年に上野駅（東京都）～日光駅（栃木県）間を障がい者専用列車「ひまわり号」が初めて走った。当時は駅に車いすが通れる改札口や多目的トイレがないなど、まだ公共交通機関のバリアフリーが進んでおらず、障がいのある方が自由に列車に乗って旅をすることが難しかった。

その後、ひまわり号の活動は全国に波及する。千歳では、平成8年に千歳とその周辺を目的地として走った札幌ひまわり号の受け入れのために実行委員会が発足。翌年、千歳ひまわり号を走らせる会として独自の活動をスタートさせた。

今井さんは第1回からのメンバー。保育士を目指す短大生だったとき、ボランティアとして1回限りのつもりで参加した。「卒業後に就職した保育所で会の役員と再会。誘われるがまま、2回、3回と参加していたら、いつの間にか事務局次長になっていました」と笑う。

現在はバスを使った日帰り旅行を中心に、年1回のペースで実施している。今年は7月に小樽で運河周辺の散策と印鑑作りや染め物などの職人体験を楽しんだ。また11月には20周年記念旅行として、飛行機を利用し、東京ディズニーランドへ。悪天候のため、長時間空港で待機するというハプニングがあったものの、参加者の笑顔があふれる1日になったという。

参加者が100人を超えることもある会の旅行。案内文書の送付や交通機関の手配など、旅行の準備にいつも苦労するという。

「毎年これで最後にしようと思ってしまうほど大変です。でも、旅行が終わったときに参加者から掛けられる『来年も一緒に行こうね』という言葉が忘れられなくて、今日まで続けてこられました」と笑顔を見せる。

今井さんは近年、会の変化を感じている。「自分もボランティアとして手伝いたいという障がいのある方が増えました。支援する側、される側と区別せず、皆が楽しめる旅行を企画するという会の趣旨が浸透した結果かもしれません」

今後について、今井さんは「本当はひまわり号が走らなくても、皆が自由に旅行できる環境が一番です。でも『今年も元気に会えたね』と仲間と言い合える場は、私にとってもかけがえのないもの。これからも大切にしていきたい」と語ってくれた。